若者の言葉（『新しきシベリアを横切る』）

宮本百合子

青空文庫

この本に集められている作物は、殆どみんなモスクワで書かれたものだ。一九二八年の春から、一九三〇年の秋まで。少し、日本にかえってから書いたものも入っている。

ソヴエト同盟における三年間の滞在は、実に自分に多くのものを教えた。階級的にどう生きるべきかということを自分に教えたのも、この三年間の見聞の結果だ。自分は本からの理窟でなく、日常の生活から、体でそれを学んだ。

ところで、この旅行記一巻の中に、そのように一人の日本女をこね直したほど強力な、ソヴエト同盟の社会生活の全幅がもられているか？

いや。ここに集められている旅行記は断片的だ。それに、書きかたが、多く、自分の古い技術のかたによって書かれている。つまり、まあ気取ってるのだ。

だから、パラッと頁をくって見て、買わない人（ひと）もうんとあるだろう。自分は、こういうかたで書いた本はこれを最後にしようと思っている。

しかし、これはこれで、又役に立てようがあるのだ。

第一、ソヴエト同盟について、革命以来伝えられているブルジョアの逆宣伝は、我々の常識の中で、どの位修正されて居るだろうか？　プロレタリア革命の勝利は、ソヴエト市民、あらゆる働く男女と子供との些細な日常生活までを、どんな驚歎すべき現実的な力で、改善したか。そのことについてハッキリ理解しているだろうか？

ソヴェト同盟が経つつある道は、ひとの道ではない。我等の道だ。我々は、そこで、先進的なプロレタリアートとその指導党とが、どんな困難に出会い、どんな成功をよろこびつつ、社会主義の達成に努力しているかを、知らなければならない。

何の為にブルジョア国は結束して国際連盟までを動員し、ソヴェト同盟に向って世界戦争の下拵えをやっているか？

なぜ、世界のプロレタリアートは、それに対してソヴェトを守れ！　と叫ばずには居られないか？　それ等のことを我々は知らなければならない。ここに集められている数篇の印象記は、所謂文学的すぎる欠点にかかわらず、或る程度までは、必ずその説明の役に立つのだ。

読者諸君。自分は約束する。この次の本には、もっと組織的に、全般的にソヴェト同盟の生活を紹介することを。同時に、きっと、もっと簡明な書きっぷりで書くことを。

しかし、この集はこの集として最大の利用価値を発揮せしめよ。

一九三一年一月

〔一九三一年二月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十八巻」新日本出版社
　1981（昭和56）年5月30日初版発行
　1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第十五巻」河出書房
　1953（昭和28）年1月発行
初出：「新しきシベリアを横切る」内外社
　1931（昭和6）年2月発行
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2004年2月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

若者の言葉（『新しきシベリアを横切る』）

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/